

シチズンシップ・スタディーズ /

ネパール未来プロジェクト 学生の声

食マネジメント学部
池田ゆうか



フェアトレードについて勉強!

実際にネパールへ行き、ネパールの課題を自分の目で見る事が出来ました。それを通して、日本との比較をしたり今まで以上に日本の課題にも興味を持つようになりました。また、多くの人との出会いも魅力の一つです!



ダンスを披露...!?



子どもたちとのふれあい



おいしいカレーを堪能!





ネパールのお寺訪問



WSDOという団体にて機織り
体験もしました！



ポカラは本当に素敵でした！

私が伝えたいネパール未来プロジェクトの魅力は、**‘広い価値観を知れる’** きっかけになることです。

このプロジェクトではNGO団体やフェアトレード生産者のお宅、現地の小学校、ネパールの歴史的建物など様々なネパールの場所に訪問しお話を聞く機会があります。これらを**見て・聞いて・感じて**、自分が予想していたものとの違いに気づいたり、仲間とのミーティングを通じて様々な意見を聞ける機会があったりと**新たな視点をもてる素晴らしいプロジェクト**だと思います。

新しいことに挑戦したい方や大学生活のなかで何かに取り組みたいと考えている方は本当におすすりめだと思ひます！

海外に行ったことなくても…

経済学部 田中佳太

私は今回のネパール実習が初めての海外経験でした！

そんな私から伝えたいのは、もし受講を考えているみなさんの中に

「海外に行ったことないし、やめとこうかな…」と考えている方がいれば

もったいない！ 経験豊富な先生や、（きっと）受講生もいます！

今までの経験など関係なく、受講を検討してみてください。



経験豊富な仲間たち



優しく迎えてくれる現地の方々

ネパール未来プロジェクト
国際関係学部 堀田 恵美



子供たちとの触れ合い



事後報告でのチャイ販売



工房の様子

NGOで働くスタッフ、子供たち、フェアトレード製品の生産者など、現地の方々とお話しする機会をいただきました。実際に現地の方々と対話することによって、私たちがフェアトレード製品を手取るまでの過程やネパール社会について垣間見ることができました。



シチズンシップ・スタディーズ |

ネパール未来プロジェクト

～フェアトレード・子どもの貧困から考える～
のご紹介

担当教員：秋吉恵（実習も引率）



- ・大学卒業後は某食品会社で医薬品研究
- ・インドNGOに転職、貧困地域で診療
- ・帰国後、某外資系製薬会社で医薬品開発
- ・国際保健NGOに転職
- ・国際社会開発の大学院で学ぶ
- ・大学教員へ





ネパール

9月14日～20日（予定）ネパール実習
実習前後は日本でボランティア活動
初夏 ネパールの文化や社会
秋 学祭等での発信&フェアトレード販売

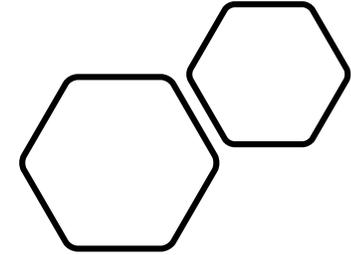
ネパールといえば・・・



ネパール

熱帯の平野
～世界最高の山





このプロジェクトの受け入れ先

特定非営利活動法人

シャプラニール

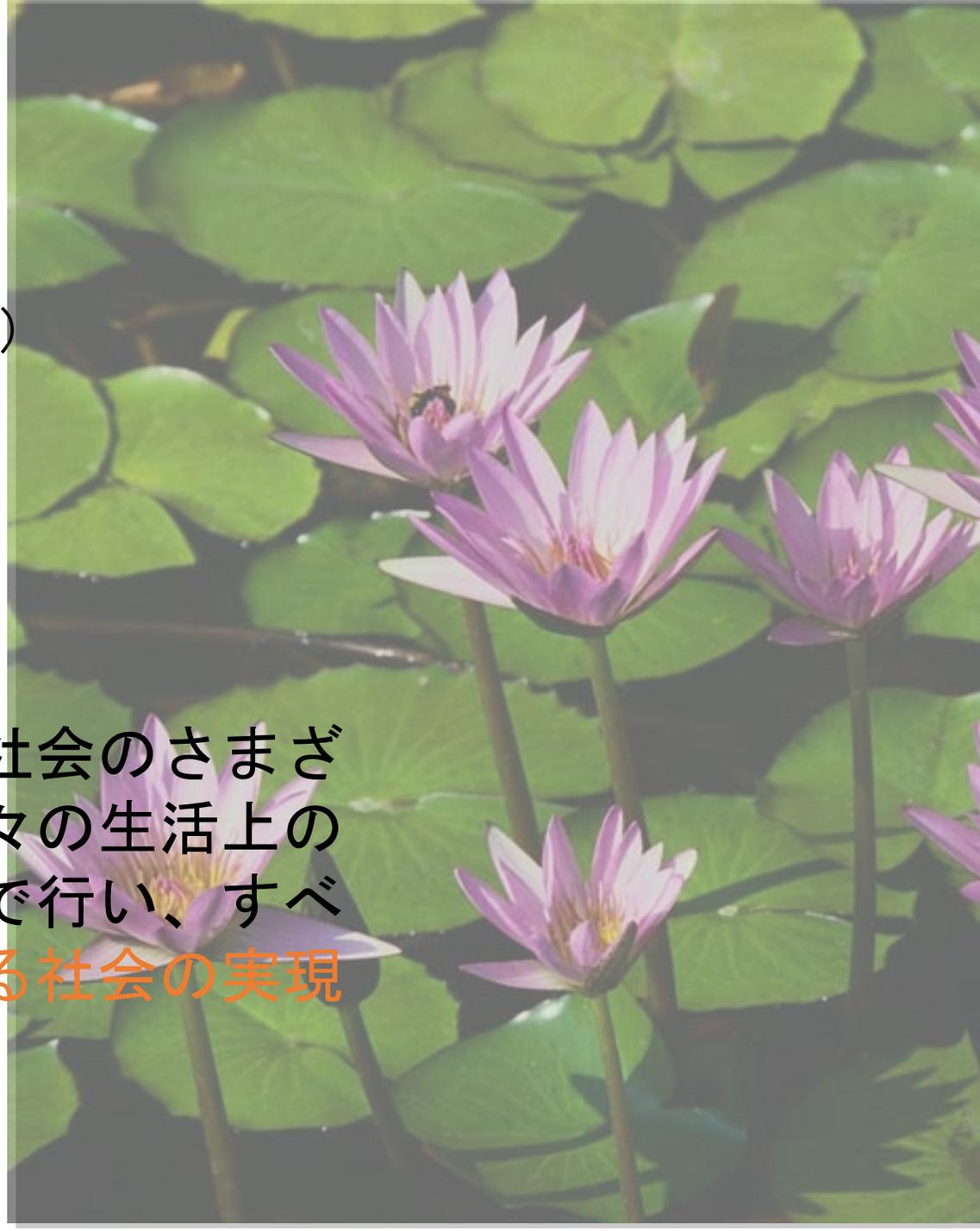
=市民による海外協力の会



- 創立:1972年
- 活動地域:南アジア(バングラデシュ、ネパール)
- 職員数:日本人14名(駐在員2名含む)、
バングラデシュ人12名、ネパール人5名

ミッション

私たちは、南北問題に象徴される現代社会のさまざまな問題、とりわけ南アジアの貧しい人々の生活上の問題解決に向けた活動を現地と日本国内で行い、すべての人びとがもつ豊かな可能性が開花する社会の実現を目指しています。



シャプラーニールの活動



- 児童労働のない社会をつくる
- 災害に強い地域づくり
- 女性の生活・収入向上（フェアトレード）
- 緊急救援・被災地支援活動

女性の生活・収入向上(フェアトレード)

Craftlink*



クラフトリンク

手工芸品(クラフト)を通じて、
人々がつながり(リンク)、
みんなが笑顔で暮らせる社会を目指す。

訪問先1: フェアトレード商品を作る女性たちが集まる Women's Skills Development Organization(WSDO)



WSDOの女性たちがつくる小物たち

WSDO代表のラム・カリさん



さまざまな事情から、仕事がなく、
食えることや教育を受けることがままならず、
収入を得られる仕事を持つ機会のなかった女性たちが、
地域にある素材を用いた手工芸品づくりで生計をたてる。
それを支援するプロジェクトです。

機織り体験・意見交換



生産の現場を体感し、
スタッフと交流した充
実の時



訪問先2:
生産者の子どもが通う村の学校訪問

山の中腹の学校で、先生と話し、子どもたちと遊び踊った



訪問先2：ネパールにおけるフェアトレード活動促進 FTG Nepal



ビジネスという観点からフェアトレードを考える

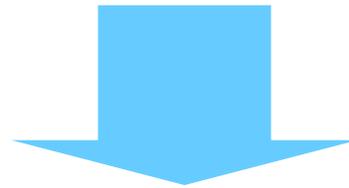
児童労働のない社会をつくる

基本的な教育



子どもらしく過ごせる時間

生きていくための知識



状況を変えること

(ものやお金をあげる支援ではない)



「あたりまえ」をあたりまえにする。

訪問先3: 児童労働削減に取り組む

Child Workers in Nepal(CWIN) & Child Help Line

CWIN スタッフと救出された子どもたち



許可を得て掲載しています

門にはヘルプラインの電話番号が



学祭でのフェアトレード商品販売



一緒に、ネパールでボランティアしませんか？



プロジェクト名: **ネパール未来プロジェクト**
～フェアトレード・子どもの貧困から考える～

募集人数

10名

受入団体名: シャプラニール＝市民による海外協力の会

<受入団体からのメッセージ>

皆さんが買い物をする時一番気になるのは何ですか？値段？産地？それとも・・・？

何気なく手にとっている商品がどこから来たか、どんな人が作っているのかを考えることは、世界を変える一歩になります。作る人も、買う人も幸せになれるフェアトレードについて学びましょう。

実習ではネパールのフェアトレード商品の生産現場を訪問し、生産者と交流します。また、フェアトレードが解決しようとしている社会問題や構造についても理解を深めていきましょう。

<活動期間: ネパール訪問 2020年9月14日(月)～21日(月) 活動日数: 6日程度>

<主な実習場所>

立命館キャンパス周辺、ネパール(カトマンズ・パタン・ポカラ)

<活動パターン>

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール ()Facebook ()LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

ネパールのフェアトレード商品の主要購入国である日本の学生と交流することで、生産者は仕事へのモチベーションを高め、より良い商品を作ることにつながります。ネパールで見聞きし、感じたことを皆さんの友人や家族に伝えることが、フェアトレードの価値が日本社会に浸透する力となります。

() 毎週1日程度・定例

() 月1～2回・不定期

(○) 主に夏期休暇・集中

() その他

→具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

フェアな社会を創るための一步を学ぶ

最貧国ネパールの地方部では、現金収入が得られる仕事はわずかです。特に村の外にでることが難しい女性たちにとって、自宅でできる手工芸品づくりは現金を得られる大切な仕事です。定期的な収入が入ることによって、日に三度の食事ができるようになった、子どもたちを学校に通わせられるようになったなど、たくさんの生産者とその家族の生活を支えています。

このような「フェアトレード」の商品生産販売に取り組むネパールのNGO「WSDO」を訪問し、生産現場からフェアトレードの仕組みを学びます。手工芸品生産体験、生産者の自宅訪問などを通じて、家事と両立を可能とする手工芸品生産の重要性を体感します。

「女性」が「身近な素材や技術」を使って「自宅で」できる仕事を創るフェアトレードの重要性を理解するためには、ネパールの社会背景の理解が欠かせません。小学校訪問や村歩きを通して、観光では見られないネパール社会を体感する機会を設けます。

ネパール実習中はもちろんのこと、実習で得た学びを深めながら、日本でできることを学生自らが考え、企画、実行してもらいます。

<期待できる学び>

生産者と交流し、生産体験をすることで、消費者である私たちの「買い物」という行動が、見えない存在であった生産者の生活に影響を与える可能性があるという事実を、実感を持って理解することができます。実習中で訪問を予定している小学校（またはNGO）では、ネパールに存在する差別や子どもの状況を実際に見て、貧困や格差が生み出される社会構造についての理解を深めます。

これらの経験を通して、日本で私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションにつなげ、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとることが期待できます。

<活動の流れ>

- 4/19(日) 4,5限 受講前ガイダンス
- 5/10(日) 4限 事前学習Ⅰ,(ボラとは?)
5限 コアタイム
- 6/7(日) 4限 事前学習Ⅱ(興味関心) 5限 コアタイム
- 7/5(日) 4限 事前学習Ⅲ(目標設定) 5限 コアタイム
- ↓
- 8/26(水) 4限 実習準備
5,6限 宿泊
- 8/27(木) 1,2限 実習準備 渡航前オリエンテーション【シャプラニールスタッフ参加】
- ↓
- 9月14日(月)~21日(月)(予定) ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム
(毎日のふりかえり)【シャプネパール事務所スタッフ参加】
- ↓
- 10/4(日) 5限 コアタイム 実習ふりかえり&学祭 準備
- ↓
- 10/31(土) 1,2限 事後学習Ⅰ & コアタイム 学祭 準備
- ↓
- 11月 学祭・Asia Week等での発信(11/15 衣笠学祭)
- ↓
- 11/21(土) 1,2限 事後学習Ⅱ & コアタイム 報告会準備
- ↓
- 12月5日(土) 報告会【シャプラススタッフ参加】

*新型コロナウイルスの影響によってネパール実習の実施が困難となった場合には、代替え案として、9/15~19にシャプラニール東京事務所及び関係団体での活動を予定しています。

<受講生に求めること>

費用	<p><実習参加費> 往復飛行機代13万円、現地交通費45万円、滞在費2万円、ビザ代1万円、通訳等2万円、海外旅行保険5千円、その他実習委託・通訳費数万円など ……合計約25万円程度</p> <p>※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(4万円または2万円)の対象です。</p>
参加の姿勢	<p>訪問先の言葉を覚え、食事や文化を体験するような、他者に興味をもち積極的に理解しようとする姿勢を期待します。どうしたらいいかと迷ったら「自分がされて嬉しいことは、相手にとっても嬉しいはず」と想像力を働かせましょう。</p>
終了後の評価	<p>ボランティア活動や学びの発信、現地実習への主体的な参加および実習グループ間の学びあいに対する姿勢を期待します。</p>

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでの実習時に得た感動や学びを自己満足に終わらせられないためには、「日本の社会、私たちの暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」と引き付けて考えること、そこから見えてきたことを実際の行動に落とし込む場を繰り返し設けることが大切です。そのためには「あれ?」「どうして?」という疑問や違和感をそのままにせず、立ち止まって考える癖をつけることが第一歩です。ネパール実習がその一歩を踏み出す機会になれば幸いです。